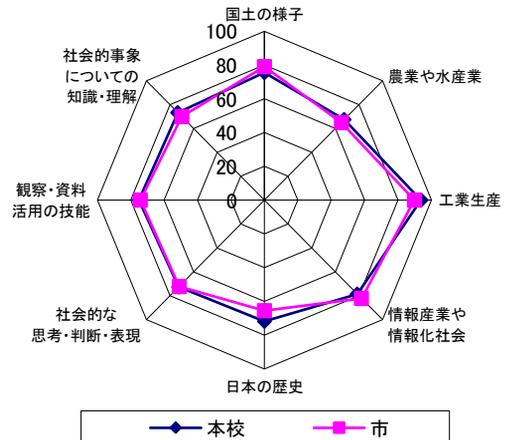


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.6	79.1	74.9
	農業や水産業	67.5	65.1	63.7
	工業生産	93.7	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	78.6	82.2	73.1
	日本の歴史	71.8	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.7	72.2	69.0
	観察・資料活用技能	75.2	74.3	69.2
	社会的な事象についての知識・理解	73.4	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は75.6%で、市の正答率を3.5ポイント下回った。 ●択捉島と沖ノ鳥島の位置を選択する問いに対し、校内正答率は49.2%で、市の正答率を9.6ポイント下回った。 ●ロシア連邦の位置を選択する問いに対し、校内正答率は69.8%で、市の正答率を9.2ポイント下回った。 	<p>普段から、地図を見て、場所を確認する習慣を身に付けるよう声掛けをしていく。</p> <p>世界における日本の国土の位置、領土の範囲や世界の主な大陸や海洋については、地図帳で確認したり、復習プリント等で復習したりして、知識・理解の定着を図っていく。</p>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は67.5%で、市の正答率を2.4ポイント上回った。 ○米作りと作業工程とその時期を選択する問いに対し、校内正答率は85.7%で、市の正答率を26.4ポイント上回った。 ●国産と外国産の農作物の値段の違いについて、資料から読み取り表現する問いに対し、校内正答率は30.2%で、市の正答率を10.1ポイント下回った。 	<p>資料活用技能を育成するため、国語科や算数科との関連を図ったり、学校図書館の利用を進めたりする。さらに、資料から分かったこと、推測できたこと、気付いたことなどを互いに発表し合い、見方・考え方を広げていく。</p>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は93.7%で、市を4.0ポイント上回った。 ○工業製品の種類についての問いに対し、校内正答率は95.2%で、市を6.2ポイント上回った。 	<p>工業生産について、今後も、復習プリント等で、知識・理解の定着を図っていく。</p>
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は78.6%で、市の正答率を3.6ポイント下回った。 ●マスメディアの種類についての問いに対し、校内正答率は79.4%で、市の正答率を6.4ポイント下回った。 	<p>情報産業の発展への関心を高めるため、情報産業と国民生活との関わりについて、再度授業で取り上げ、復習する必要がある。国民生活において、情報産業が果たす役割が大切なことや情報を有効に活用することが大切なことをもう一度確認し、理解を深めていく。</p>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は71.8%で、市の正答率を6.4ポイント上回った。 ○豊臣秀吉の刀狩の政策についての問いに対し、校内正答率は71.4%で、市の正答率を15.4ポイント上回った。 ○文明開化についての問いに対し、校内正答率は50.8%と低いが、市の正答率を23.6ポイント上回った。 ●鎌倉時代の元寇の様子について、資料を読み取り表現する問いに対し、校内正答率は53.2%で、市の正答率を4.2ポイント下回った。 	<p>資料から大切な情報を読み取る時、どこに視点を置いて見るのかを支援していく。そのために、歴史的な事象を羅列する学習ではなく、授業の中で、統計グラフや地図、当時の絵や写真などの資料を多く取り扱い、その資料から何が読み取れるのかを発表し合うような場を設定し、資料を読み取る力や読み取ったことを表現する力を身に付けていくようする。</p>